

<全体分析>

試験時間 75 分

解答形式

論述・計算が中心で、空欄補充・記述・語句選択・記号選択などが含まれる。

分量・難易（前年比較）

分量（減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加）

難易（易化・やや易化・変化なし・**やや難化**・難化）

出題の特徴や昨年との変更点

昨年出題されなかった地質図の問題が出題された。字数指定の論述問題や計算問題がやや増加した。また、計算問題については、計算に工夫を必要とするやや煩雑な計算を必要とする問題があった。

その他トピックス

語群から必要なもののみを選択して解答を導く問題が、2題出題された。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント（設問内容・答案作成上のポイントなど）	難易度
I	空欄補充 記号選択 語句選択 記述 計算	地質・地史、 岩石鉱物 (地質図)	地学 基礎 + 地学	問 1 凝灰岩層が露出する場所を地質図から読み取る記号選択の問題で、標準的である。 問 2 断層を挟んだ地層のずれから、断層のずれの大きさを地質図から読み取る問題で、標準的である。 問 3 断層の上盤側にある凝灰岩層から、下盤側のどこに同じ凝灰岩層が分布するのかを推定するボーリングに関する問題で、やや難しい。 問 4 SiO <sub>2</sub> の量から深成岩の造岩鉱物の種類と岩石の名称を答える問題で、やや易しい。 問 5 絶対年代から示準化石の名称を答える問題で、やや易しい。 問 6 地質図から地層の形成順序を読み取る問題であるが、用意されている用語の中に前後関係が分からないものが含まれており、取捨選択しなければ正解を導けないため、やや難しい。	標準

II	計算 論述	固体地球, 岩石・鉱物 (重力異常, マグマの発生, 津波の速度)	地学 基礎 + 地学	問 1 海嶺とブーゲー異常の関係を論述する問題であるが, 受験生が苦手とする分野であるため, 正答率は低いであろう。 問 2 マグマだまりが形成される理由を論述する問題で, 標準的である。 問 3 海溝とフリーエア異常の関係を論述する問題であるが, 問 1 と同様に受験生が苦手とする分野であるため, 正答率は低いであろう。 問 4 島弧でのマグマ発生の過程を論述する問題で, よく出題されるテーマであるため, やや易しい。 問 5 津波の到達時間を計算する問題である。津波の到達距離の計算と, 津波の速度の公式を利用する必要があり, やや難しい。	やや難
III	記号選択 記述 計算 論述	大気・海洋 (大気の上層構造, 表層混合層)	地学 基礎 + 地学	問 1(1)大気の上層構造から温度を選択する問題で, 詳細な知識が必要となるため, やや難しい。 (2)対流圏界面の高度の緯度による違いを論述する問題で, やや難しい。 (3)成層圏界面の気圧を計算する問題で, 標準的である。 問 2(1)大気の上層で吸収される電磁波の種類を記述する問題で, 標準的である。 (2)成層圏で電磁波を吸収する気体を答える記述問題である。2種類を答えなければならないため, やや難しい。 (3)電離圏を答える記述問題で, 基礎知識で解答できるため, 易しい。 問 3(1)表層混合層の厚さの季節変化の理由を論述する問題で, 標準的である。 (2)高緯度における塩分低下の原因を論述する問題で, 用意されている用語から, 必要なもののみを選択しなければならないため, やや難しい。 (3)北半球の高緯度海域の塩分低下の理由を問う論述問題で, やや難しい。	やや難
IV	空欄補充 計算 論述	宇宙 (惑星や彗星の性質, 惑星の公転とケプラーの法則)	地学 基礎 + 地学	問 1 惑星に関する基礎知識を問う問題で, 易しい。 問 2 彗星の性質に関する基礎知識を問う論述問題であるが, 制限字数で論述するには, 要点を的確にまとめる必要があり, 標準的である。 問 3 冥王星が惑星から外された理由を問う論述問題で, 標準的である。 問 4(1)小惑星と地球の公転に関する計算問題で, 描図をしながら正解を導いていく必要があるため, やや難しい。 (2)ケプラーの第三法則を用いて計算する問題で, 計算過程で工夫を必要とするため, やや難しい。 ※途中の式の有理化の有無によって, 解答の数値は 23~29 度の間になる。	やや難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断

しています。

### <学習対策>

記述対策としては、教科書に太字で掲載されているような用語を確実に覚えることが必要である。論述対策としては、重要な地学現象に関して、メカニズムをしっかりと理解し、少ない字数で素早く要点を的確にまとめることができるように、練習することが大切である。計算問題の対策としては、様々な分野から出題されるため、公式だけではなく、地学現象と計算が結びつけられるような部分を、過去問などで探して、問題演習をしっかりとしておくことが重要である。また、教科書などに掲載されている図や、実習・観察のページにあるグラフなどを実際に自分で描いて、結果や考察をまとめる練習をしよう。

地学は問題集が少ないため、過去のセンター試験・共通テストや二次試験などに加え、オープン模試や全統記述模試なども活用して学習していこう。